

紀要

■設立50周年記念号

- 鳥浜貝塚におけるニホンジカの利用…………… 佐藤 巧庸 (1)
- 土偶の意味論に関する理論的基盤の整理と試論…………… 瀬口 眞司 (13)
- 湖北・湖東地域の前期古墳の葺石…………… 宮村 誠二 (23)
- 横穴式石室の空間設計の検討
—志賀古墳群における平面プランと副葬土器…………… 堀 真人 (28)
- 木村石塚古墳出土埴輪について…………… 辻川 哲朗 (40)
- 近江八幡市大中の湖南遺跡の再検討
—石敷き遺構 第1遺構の構造について— …………… 田中 咲子 (57)
- 小型海獣葡萄鏡について…………… 福井 知樹 (61)
- 墨書土器にみる古代の近江 —その2—…………… 濱 修 (64)
- 比良山系の山寺に築かれた石垣と回峰ネットワーク… 小林 裕季 (79)
- 『阿刀氏家譜系脈 御由緒二関ハル古記調査書類』
現代語訳・解題(2)…………… 阿刀 弘史 (90)
- 将棋史研究ノート 11—改めて将棋について考える—…………… 三宅 弘 (98)
- 「清瀧寺徳源院」絵図の示すもの…………… 中川 治美 (107)
- マメ類の利用についての研究ノート(2)…………… 小竹 志織 (119)
- 木製品の保存処理について —課題と実際—…………… 中村 智孝 (122)

34

小型海獣葡萄鏡について

福井 知 樹

1. はじめに

小型海獣葡萄鏡は海獣葡萄鏡の中でも遺跡から出土することが多い銅鏡である。隋唐期に作成されており、日本には伝来したものと、日本国内で伝来したものを元に踏返し鑄造で作られたものがある。舶載鏡は文様が精緻で面径も大きいものが多いが、踏返し鑄造のものは面径が小さく、文様も精緻でなくなっている。

小型海獣葡萄鏡は、北は山形県、南は宮崎県まで全国各地で出土が見られる。海獣葡萄鏡の意味合いについて再確認をしたい。

2. 海獣葡萄鏡の研究と種類

海獣葡萄鏡の研究

海獣葡萄鏡の文様については古くから研究がなされており、古くは明治 23 年（1890）にフリードリヒ・ヒルト氏が『志那研究』の中に「志那の金属鏡に就いて」を著し、文様について考察をしている。

日本人の研究の嚆矢として濱田耕作氏が明治 37 年（1904）に「海獣葡萄鏡に就いて」にて言及をしている。その中で中国古代の銅器について最も注意すべき遺物として鑑鏡としており、その中でも海獣葡萄鏡を「頗る趣味ある者」としている（濱田 1990）。濱田氏はヒルト氏の考察を引用しつつ、「海獣」と「葡萄」とをそれぞれ考察を行っている。

「葡萄」は前漢の武帝の時、張騫が大宛から持ち帰ったもので鑑鏡の文様に用いられた。葡萄の起源はギリシャ神話に出てきており、小アジアやペルシャ、インド等に広がっている。

「海獣」については、元は「海馬」という語が用いられたといい、「ハイマ」と読んだ。北宋の王黼が著した『博古図録』で初めて「海獣葡萄鏡」の語が用いられたという。

「海馬」は「海外の馬」の意と目されたが、海獣葡萄鏡には馬があしらわれているものがなく、その他の動物が描かれており、馬から獣に転じたようである。「海馬」の由来としては、ディオニュソス祭と密接な関係がある「ハオマ」という神を祀る儀式から転じたものだとしている。象られた獣は中国ではなく、ディオニュソス祭の行われる地方より輸入したと考えられた。

さて、以降、樋口隆康氏、勝部明生氏、小林恵子氏らが文様、特に「海獣」というものがなんであるのかというのを研究している。

樋口氏は青海地方の牝馬と水中の龍から名馬が生まれ、それから海馬の名が来たとしている。葡萄の源流については西アジア、シリア、ギリシャ、ローマと見ており、アッシリア、エジプト、ギリシャなどに見られる葡萄文に、イ

ランのササン美術にある禽獣文が隋唐時代に影響を与えたとしている（樋口 2008）。また、小林氏はそれに付け加えて、ササン朝ペルシャに見られる禽獣葡萄文をそのまま模倣したのではなく、西アジアの葡萄唐草文に中国独自の狻猊文という中国独自の文様が組み合わさったとしている（小林 1980）。

いずれにしても、海獣葡萄鏡の海獣の元は「海馬」であり、中国ではなく、西方諸国の影響を受けていること、葡萄に関してはギリシャを起源とする葡萄を張騫が持ち帰ったことで中国にきたのだといわれる。

海獣葡萄鏡の種類

海獣葡萄鏡の種類としては、杉山洋氏が分類を行っている。海獣葡萄鏡に限らず、鑑鏡は大きさで分けられている。面径 40cm 以上が超大型鏡、面径 40～20cm が大型鏡、面径 20～10cm が中型鏡、面径 10cm 以下が小型鏡の 4 種に分けられている（杉山 2003）。海獣葡萄鏡においては、面径が 25cm 前後のものが大型鏡、面径 15cm 程度のものが中型鏡、面径 6 cm 程度のものが小型鏡として多く見つかっているようである。

大型鏡は御神体などとして寺社の伝世品が多くを占める。中型鏡は高松塚古墳等の古墳の副葬品として出土があり、大型、小型の鏡には見られない特徴がある。同型鏡、すなわち原型が同じで踏返し鑄造で繰り返し作られた鏡が多く見られる（飛鳥資料館 2006）。

小型鏡は祭祀に関わる遺跡・遺構から出土することが多く、大型、中型鏡とは一線を画している。文様について、内区部分には、葡萄唐草文に四獣が配され、外区には葡萄唐草文に 7 羽の鳥が配されている。また文様が崩れたものが多く、中には文様がわずかに盛り上がるだけのものもある（飛鳥資料館 2006）。

小型鏡には 6 cm 前後のことが多いのは先述の通りだが、中には 3 cm 前後のものもあり、紐と四獣がわずかに盛り上がっているだけの鏡である。内区部分だけを表現している。杉山氏は外区まであるものを A 類、内区のみのもを B 類としている。

3. 小型海獣葡萄鏡の出土遺跡および伝世品

小型海獣葡萄鏡の出土遺跡と用途

小型海獣葡萄鏡が出土している遺跡及び伝世品は表 1～表 3 の通りである。66 面ある。

小型海獣葡萄鏡の出土遺跡の時期としては、多くが 7 世紀後半から 8 世紀中頃に限られる。寺家遺跡の B 類のものと隅田八幡宮 2 号経塚のものがそれぞれ 10 世紀初頭と 12

表 1 小型海獣葡萄鏡（A類）出土遺跡

小型海獣葡萄鏡出土遺跡	所在地	出土遺構（箇所）	面径（cm）
1 川前2遺跡（2次）	山形県山形市	竪穴住居床面直上	（6.20）
2 松ノ木台2号墳	千葉県富里市	方墳周溝	6.20
3 瀬戸鈴耕地遺跡	千葉県印西市	畑	6.05
4 伝どんどん山出土	埼玉県上尾市	-	-
5 武蔵国分寺跡	東京都国分寺市	ピット群埋土	5.95
6 野伏西遺跡	東京都新島村式根島	畑？	6.20
7 芝宮遺跡群	長野県佐久市	溝	6.20
8 日詰遺跡	静岡県賀茂郡南伊豆町	不詳	5.60
9 天の川遺跡	静岡県牧之原市	ピット埋土	6.40
10 寺家遺跡	石川県羽咋市	祭祀遺跡（竪穴住居）	6.30
11 寺家遺跡	石川県羽咋市	祭祀遺跡	6.10
12 寺家遺跡	石川県羽咋市	祭祀遺跡	（-）
13 シラスナ遺跡	石川県輪島市	不明	6.05
14 藤江B遺跡	石川県金沢市	-	-
15 出目地古墳	岐阜県不破郡垂井町	不明	6.10
16 ユルベ浜	三重県度会郡大紀町	採集品	9.40
17 金剛坂の里	三重県多気郡明和町	経塚？	8.95
18 東光寺遺跡	滋賀県大津市	溝	6.40
19 太鼓塚古墳11号墳	滋賀県大津市	石室	6.30
20 周山廃寺	京都府京都市右京区	石敷上	5.90
21 藤原京右京五条四坊	奈良県橿原市	溝	6.50
22 大福遺跡	奈良県桜井市	包含層	6.10
23 谷公園遺跡	奈良県桜井市	表採	5.89
24 平城京九条大路	奈良県大和郡山市	溝	5.90
25 松山古墳	奈良県大和郡山市	古墳石柳内	9.80
26 松山古墳	奈良県大和郡山市	古墳石柳内	9.70
27 金峯山頂遺跡	奈良県吉野郡天川村	不詳	5.60
28 西の辻遺跡	大阪府東大阪市	河川跡	6.30
29 高木遺跡	大阪府松原市	整地土	（8.00）
30 隅田八幡宮2号経塚	和歌山県橋本市	経塚	6.30
31 勅使川窯跡	兵庫県宝塚市	須恵器窯崩落土	5.90
32 二本松古墳	兵庫県神戸市	-	9.40
33 奥井谷墓	兵庫県川辺郡猪名川町	-	10.00
34 川入中撫川遺跡	岡山県岡山市	溝	6.20
35 大宰府（160次）	福岡県太宰府市	土壇	5.80
36 真名子古墳	福岡県八女市	-	9.90
37 本庄古墳群	宮崎県東諸県郡国富町	-	9.90

（杉山 2003、飛鳥資料館 2006 を基に加筆）

表 2 小型海獣葡萄鏡（B類）出土遺跡

小型海獣葡萄鏡出土遺跡	所在地	出土箇所	面径（cm）
1 明花向遺跡	埼玉県さいたま市	包含層	3.68
2 寺家遺跡	石川県羽咋市	土器たまり	3.94
3 後田遺跡	愛知県西尾市	方形土坑	3.50
4 欲賀南遺跡	滋賀県守山市	不定形な落ち込み	3.00
5 坂田寺跡	奈良県高市郡明日香村	雨落溝	3.90
6 四条大田中遺跡	奈良県橿原市	焼土土坑	3.80
7 四条大田中遺跡	奈良県橿原市	焼土土坑	4.00
8 藤原宮第80次	奈良県橿原市	五条大路路面	3.79
9 平城京右京二条三坊三坪	奈良県奈良市	包含層	3.76
10 平城京左京四条三坊十坪	奈良県奈良市	東堀河	3.91
11 平城京左京四条四坊十三坪	奈良県奈良市	包含層	3.98
12 西隆寺跡	奈良県奈良市	井戸最上層	3.80
13 讃良郡条理跡	大阪府四条畷市	包含層	3.90
14 深江北町遺跡	兵庫県神戸市	掘立柱建物外部	3.90

（杉山 2003 を基に加筆）

表 3 伝世品

伝世品	所在地	面径（cm）
1 上田コレクション98号	-	9.20
2 上田コレクション99号	-	9.00
3 上田コレクション101号	-	9.60
4 上田コレクション107号	-	9.20
5 上田コレクション108号	-	8.00
6 千石コレクション230号	-	7.80
7 千石コレクション231号	-	9.80
8 八代神社9号	三重県鳥羽市神島	6.21
9 八代神社10号	三重県鳥羽市神島	6.10
10 八代神社11号	三重県鳥羽市神島	6.22
11 八代神社12号	三重県鳥羽市神島	6.12
12 八代神社13号	三重県鳥羽市神島	6.01
13 八代神社14号	三重県鳥羽市神島	6.05
14 神門神社10号	宮崎県臼杵郡美郷町	5.85
15 新田神社	鹿児島県薩摩川内市	8.90

世紀中頃という伝世が見られる。畿内に集中して出土が多いが、全国的に分布をしていることがわかる。

出土面数は奈良県が 15 面と圧倒的に多いが、ほかにも石川県が 6 面、兵庫県が 4 面、大阪府・滋賀県が 3 面と続く。

一般に小型海獣葡萄鏡が出土する事由としては祭祀に関わるものと考えられている（杉山 2003）。水辺の祭祀に関わるものとして溝や河川などの遺構から出土する例が多い。それは祭祀に関わるような遺物、すなわち、ミニチュア土器などの遺物と共伴して出土することが挙げられる。それらの鏡は鏡面が磨かれず、文様も雑多なものでいいとされ、「鏡面・鏡背ともに鋳上がりや仕上げの状態が何ら顧慮されることがない鏡、言い換えればただの丸い青銅板であれば用の足りる鏡、これが祭祀用の鏡として使用された小型海獣葡萄鏡の本質（飛鳥資料館 1999 p. 23）」と考えられている。藤原京右京五条四坊の側溝からは日用雑器に加えて、木製斎串、金属製の人形、鈴とともに小型海獣葡萄鏡や素文鏡が出土している（橿原市千塚資料館 1995）。

北端に当たる山形県山形市の川前 2 遺跡や、石川県羽咋市の寺家遺跡では堅穴住居跡から出土が見られる。寺家遺跡のものは廃絶時に埋め込む儀式の可能性が指摘されている（財団法人山形県埋蔵文化財センター 2011）。ただし、川前 2 遺跡の堅穴住居の発見箇所は攪乱部分にあたり、正確な状況は不明である。

そのほか、奈良県橿原市の四条大田中遺跡（大藤原京右京五条五・六坊）では焼土坑からフイゴ羽口、鉄滓、銅滓、ガラス滓等とともに小型海獣葡萄鏡（B 類）が 2 面出土している。鋳造に関わる遺構と考えられている。

近江国の小型海獣葡萄鏡

滋賀県では 3 面出土している。大津市太古塚遺跡、東光寺遺跡、守山市欲賀南遺跡である。

太古塚古墳は 11 号墳から出土している。11 号墳は直径 13m の円墳と考えられている。後世の攪乱を受けており、遺存している部分は高さ 1m ほどである。海獣葡萄鏡は面径 6.3cm で厚さ 0.7cm である。鋳上がりは悪い。四獣文が見えるが、緑青が全体を覆っている。ほかにも銅鈴、須恵器坏蓋、鉄釘が出土している（大津市教育委員会 1992）。

東光寺遺跡は溝 SD06 から出土している。海獣葡萄鏡は面径 6.4cm で銅質は悪く、文様も不鮮明。共伴遺物は須恵器、土師器、土錘、製塩土器、鍛冶関係遺物がある。墨書土器があり「麻呂」の字がある。出土土器からこの溝は 7 世紀後半頃に相当する（辻川 2002）。

欲賀南遺跡は不定型な落ち込みから出土している。海獣葡萄鏡は面径 3cm で紐を欠いており、文様配置から四獣文というため、おそらく小型海獣葡萄鏡 B 類なのであろう。文様自体は緑青のため不鮮明である。共伴遺物は須恵器、土師器、砥石、鉄製品がある（守山市教育委員会 2012）。

滋賀県においては、以上 3 面が出土しているが、東光寺

遺跡以外は、祭祀に関わるとは言いがたい状況であった。一方で、遺構に伴う状況のものが少ないため実際の用途は不明であるとしか言い様がないのかもしれない。

4. まとめ

小型海獣葡萄鏡は 7 世紀後半から 8 世紀中頃という短期間に用いられ、奈良時代の祭祀に関わる重要な遺物である。しかし、66 面ある中、溝や河川から出土しているものは 10 面もない。その上使用された状態で出土したものは数少なく、包含層や土坑、整地層、路面・石敷上など用途が不明なものも多くある。また伝世品もあり、出土品とは一線を画すものの、大型鏡や中型鏡とも意味合いが違ってくるのかもしれない。

今後出土事例が増えることで、新たな使用用途が明らかになってくる可能性も高いので、今後に期待される。

文献一覧

- 飛鳥資料館(1999)『鏡を作る。海獣葡萄鏡を中心として』
 飛鳥資料館(2006)『飛鳥の金工 海獣葡萄鏡の諸相』
 上田忠男・西川寿勝(2005)『上田コレクション鏡図録 古鏡探照』新風書房
 大津市教育委員会(1992)『太古塚遺跡発掘調査報告書』
 橿原市千塚資料館(1995)『藤原の金工』
 勝部明生(1996)『海獣葡萄鏡の研究』臨川書店
 小林恵子(1980)「海獣葡萄鏡文様についての一考察」『東アジアの古代文化』23 号 大和書房
 財団法人山形県埋蔵文化財センター(2011)『川前 2 遺跡』
 杉山洋(2003)『唐式鏡の研究 飛鳥・奈良時代金属器生産の諸問題』鶴山堂
 千石コレクション調査研究委員会(2017)『千石コレクション—鑑鏡編—』兵庫県立考古博物館
 辻川哲朗(2002)「2-3. 東光寺遺跡」『出土文化財管理業務報告書』滋賀県教育委員会・財団法人滋賀県文化財保護協会
 濱田耕作(1990)「海獣葡萄鏡に就いて」『濱田耕作著作集 第四巻』同朋舎
 樋口隆康(2008)「海獣葡萄鏡の海獣とは」『橿原考古学研究所論集 第十五』八木書店
 兵庫県立考古博物館(2017)『兵庫の古鏡』
 守山市教育委員会(2012)『欲賀南遺跡発掘調査報告書』

（ふくい ともしき：調査課 技師）

ANNUAL BULLETIN
of
Shiga Prefectural Association for Cultural Heritage
Vol.34 2021.3

私たちは文化財をとおして
ゆたかな滋賀づくりに貢献します。



公益財団法人滋賀県文化財保護協会
Shiga Prefectural Association for Cultural Heritages